

令和4年度 百合丘高等学校学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・ 世界史研究	学年	第3学年	教科書	『グローバルワイド最新世界史図表 四訂版』(第一学習社)
		単位数	2単位	副教材	

学習目標	2年次に履修・修得した世界史Aを前提に近現代までの世界史の政治・経済的分野を重点的に学習し、相互補完的に世界史Bの内容を踏まえたうえで現在の国際情勢に通じる国際関係の流れを日本の関わり合いに留意しつつ考察していきます。
------	---

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○大局的な視野の育成のために文字史料や写真等の資料を活用したうえで、歴史的事項の把握とその問題点を考察します。 ○現代世界が直面する諸課題の歴史的要因を生徒の発表や論述など学習内容に適した言語活動を通して思考する能力を養います。 ○最近の入試問題を利用して問題演習を行い、入試への実戦感覚を磨きます。
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	近現代世界史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。
	b	思考・判断・表現	多面的・多角的に近現代世界史の歴史事象を考察し、適切に表現している。
	c	資料活用の技能	近現代世界史に関する諸資料を活用して歴史事象を追究する方法を身に付け、考察の過程や結果を、適切に分析している。
	d	知識・理解	世界史・日本史・世界地理などの複眼的視点に立って近現代世界史の歴史事象を総合的に理解し、その知識を身につけている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエント世界と東地中海世界	16	アジアの古代文明	中国・インドの古代文明	○	○	○	○	a. 古代国家の形成について、インド、中国、東南アジアの諸地域におけるその過程や内容に関心を持ち、その文明の意義を意欲的に追究するとともに遊牧民族と中国やインドの古代王朝の関係を学習しようとしている。 b. インドや中国、東南アジアの文明の比較やその文明の相違を的確に考察し、仏教やヒンドゥー教の特質やその発展の意義を歴史的視点から思考し、適切に文章にまとめている。 c. 歴史地図や年表、石刻・木簡等の資料を活用して、各地域の都市や国家、統一帝国、遊牧民族の歴史的流れや内容を把握している。 d. 古代国家の形成について、インド、中国、東南アジアの諸地域における歴史的解釈に関する基本的な知識を理解し、身につけている。	・定期考査 ・提出物 ・課題レポート、発表 ・授業への取り組み状況
			内陸アジア世界・東アジア世界の形成	内陸アジア世界の遊牧民とオアシスの定住民、北方民族の活動と中国の分裂、東アジア文化圏の形成	○	○	○	○	a. 東アジアにおける遊牧民族と中国との関係に関心を持ち、中国王朝の変遷を政治社会的変化に留意して意欲的に追究しようとしている。 b. イスラームの国家体制、文化などをイスラーム教から考察し、適切に判断して文章にまとめている。 c. 歴史地図や文献史料を活用して、インドのイスラーム化や中世ヨーロッパの成立、中世後期のヨーロッパ社会の変容から王権強化などを的確に整理している。 d. インド・東南アジアのイスラーム化や中世ヨーロッパの成立、及び封建社会の変遷を考察し、中世後期のヨーロッパ社会の変容からイタリアルネサンスに至る過程を理解し、その基本的知識を身につけている。	

6	隋唐の成立とイスラーム世界の形成・発展	隋唐の成立とイスラーム世界の形成・発展、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	○	○	○	○	<p>a. 隋唐の成立とイスラーム教の特質、イスラーム帝国の統治システムについて、関心を持って学習し、意欲にて学習しようとしている。</p> <p>b. 隋唐の成立とイスラーム世界の東方への拡大・変容を内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連づけて探究し、文章にまとめる。</p> <p>c. 隋唐およびイスラーム世界の成立について考察を深めるために地図や図版などを適切に活用している。</p> <p>d. 隋唐およびイスラーム世界の諸地域における形成・発展に関する基本的な知識を身につけている。</p>
10	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	トルコ化とイスラーム化の進展、東アジア諸地域の自立化、モンゴルの大帝国	○	○	○	○	<p>a. トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動に関心があり、契丹や女真と宋の政治・軍事的対立や宋代の産業や文化について関心を持って学習しようとしている。モンゴル帝国が掌握した内陸アジアのネットワークとその影響について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b. 中国周辺諸国の独自の文化形成、遊牧諸国家の支配体制の特徴、宋の統治体制とその社会や文化の特色を、東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察し、元朝が海域のネットワークを支配下においた意味を、社会経済的な視点から考察し、文章にまとめる。</p> <p>c. 中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図及び諸民族の文字や「清明上河図」など宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版などを適切に活用している。</p> <p>d. 日本や高麗といった東アジア周辺諸国の政治権力の交替や、文化の確立に関する基本的な知識を身につけ、契丹や女真の二重支配体制の仕組み、宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色、モンゴル帝国のユーラシアと元朝の東アジア支配の過程と、その支配の特色に関する基本的な知識を身につけている。</p>
10	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	東アジア世界の動向、清代の中国と隣接諸地域、トルコ・イラン世界の展開、ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	○	○	○	○	<p>a. 明朝の経済的繁栄と銀経済の進展や清代の中国とチベットや日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向について、関心をもって学習しようとしている。オスマン帝国、サファヴィー朝の領域拡大の過程や、インドのイスラーム支配とヒンドゥー教徒との対立と融和に、関心を持って学習しようとしている。</p> <p>b. 明朝が築き上げた冊封体制の変化を、日本や女真などの動向を中心とした東アジアの状況と関連づけて考察し、清朝と周辺諸地域との関係の変化を、東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動と関連づけて考察し、文章にまとめる。</p> <p>c. 明の領域図や周辺諸地域図、14～16世紀の東・東南アジア諸国の年表や図版、及びオスマン帝国とサファヴィー朝の領域を示す地図や、モスクの図版、ムガル帝国の領域を示す地図、インドや東南アジアの写真などを適切に活用している。</p> <p>d. 明朝の発展による朝貢世界の確立とその動揺や、清朝の中国統治やその隣接諸地域の動向に関する基本的な知識を身につけている。オスマン帝国などのイスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制、異民族統治の特色やムガル帝国の統治システムに関する基本的な知識を身につけている。</p>

		アジア諸地域の動揺	オスマン帝国の動揺と西アジア地域の 変容、南・東南アジアの植民地化、東アジアの激動						<p>a. 欧米列強では軍事力の強化が図られ植民地獲得や勢力圏拡大の競争をした結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦につながる危機が高まっていったこと、及びアジア諸国における民族運動の形成と、このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったことを、関心を持って学習しようとしている。</p> <p>b. 経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が社会の変容に与えた影響を考察し、列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が芽生えナショナリズムの運動が展開されたことを、現在の国際状況と関連づけて考察し、文章にまとめる。</p> <p>c. 列強の海外植民地面積の比較図、アフリカ・アジア・太平洋地域の関連地図、同盟・協関係図や図版などの諸資料、東アジアにおける列強の勢力圏を示す地図や図版を適切に活用している。</p> <p>d. 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国内問題、欧米列強のアジア・アフリカ・ラテンアメリカにおける植民地獲得、中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。</p>
合計時数(55分授業)	64								